

# 若狭町人口増へ あの手この手

## 空き家情報公開 町内結婚式応援

増えよ、町民。人口減少に悩む若狭町が対策に懸命だ。空き家情報を公開して新たな定住者確保に努め、若い世代向けには「ふるさとウエディング応援事業」も。町は「なんととしても減少を抑えたい」と、町の存続を賭けた戦いに取り組んでいる。  
(米田怜央)

町によると、二〇一〇年に一万六千百人の人口は、六〇年には八千三百人に、五十年で半減する見込みだ。このため町は、六〇年になっても一万人を確保することを目標に掲げた。

空き家情報の公開は、一一年度から始めた。町民から聞き込んだ情報を紙面にまとめ、県外で宣伝するほか、インターネット上でも見ることができるようにした。大手の不動産業者が扱わない情報だ。入居前には、近所との面談に町職員も立ち会う。入居希望者が改修を行う場合は、最大百万円の補助もする。

これまで公開した五十三件のうち、約半数の二十五件が契約された。その中で町外出身者が入居したのは十五件。豊かな自然の中で育児をするために移住してきた家族連れのほか、町内で二年間の農業研修を行っている「かみなか農楽舎」を卒業

し、町内で就職を希望する人の選択肢にもなっている。

同農楽舎卒業生の島光毅さん(三六)＝岐阜県出身＝は「家探しにツテがあるわけでもないし、地域との信頼関係もまだできてない。町が間に入って暮らしやすいになった」と振り返る。

一方、ふるさとウエディングは、地域の風習や食材、名所などを生かし、近隣住民を含む多くの人に披露する結婚式。町は、町内でこうした結婚式を行う男女に三十万円を助成している。地域をPRすることで活性化させ、また結婚を身近に感じてもらうことで未婚・晩婚化を防ぐのが狙いだ。

昨年度は一組だったが、想定よりも問い合わせが多かったことから、本年度は予算を四組分に増やし、一九年度までに累計で二十組をゴールインさせる目標だ。

本年度の一組目は、「恋人の聖地」とされるレインボーライン山頂公園を舞台と選んだ。同公園での結婚式は初で、経営会社のレインボーラインは「今後販売、若者専用に住宅の入居補助など幅広い策を講じる。「移住する人がいれば、その家族も増える可能性がある。どの世代もサポートできるようにしたい」と全力を挙げる考えだ。



地域から祝福される「ふるさとウエディング」に笑みを浮かべる新郎と新婦＝3月29日、若狭町末野で

若狭町空き家情報 第4

<p>貸家・売家の例</p> <p>物件面積 125㎡</p> <p>物件価格 1,500万円</p> <p>敷地面積 324㎡</p> <p>建築年数 1980年</p> <p>築年数 30年</p> <p>築年数 100年以上</p> <p>築年数 100年以上</p> <p>築年数 100年以上</p> <p>築年数 100年以上</p>	<p>2010年度末調査(3,264)</p> <p>上中農園(3,264)</p> <p>大聖入(1,100)</p> <p>高田(3,264)</p> <p>中野(3,264)</p> <p>中野(1,100)</p> <p>シニア/高齢者(2,000)</p> <p>高齢者(1,100)</p> <p>高齢者(1,100)</p> <p>高齢者(1,100)</p>

若狭町が冊子にして公開している空き家情報の一例

